

新型コロナウイルスによる偏見や差別等の現状

- 感染拡大を防ぐための情報を悪用しての中傷や差別等、SNSを利用した誹謗中傷が全国的に起きている。
 - ・県内でも子どもや教職員の感染が確認されたという報道がされた。
- 芸西村では、被害拡大を防ぐために情報の公開に踏み切ったが、村に対するに風評被害が相次いだ。
 - ・役場や学校には、子どもや家族の住所氏名を、職業の公表を迫る電話が複数かかる。
 - ・別人の名前がSNSで拡散される。
 - ・村外に勤務する村内在住の人が自宅待機を命じられる。等

実際には家族やクラスメイト、教員らも、検査は陰性で感染拡大はなかったが、村全体が風評被害にさらされ、新型コロナ風評対策関係者会議が開かれた。

- 県内全公立学校の児童・生徒を対象に新型コロナによる偏見・差別防止に関するメッセージの配付
「24時間子どもSOSダイヤル」や「こうち高校生LINE相談」などの相談窓口も併せて周知
- 新型コロナによる偏見・差別防止に関する校内研修用パワーポイントを作成。各学校に配付

偏見・差別以外に高知県の子どもたちが抱える悩み

新型コロナウイルス感染予防に伴う休校中に「24時間子どもSOSダイヤル」や「こうち高校生LINE相談」に寄せられた相談等

- 新型コロナウイルスによる外出自粛で、友だちに会うことができなくてつらい。
- 今後の勉強についていけるか心配。憂鬱になり、学校から出された課題に手が付けられない。進路、勉強、成績のことを考えると不安。
- 学校再開後、友だちができるか、新しいクラスに馴染めるか不安。マイナスな事ばかり考えてしまう。(高校1年生より)
- 自粛生活によるストレスがたまり、学校にもう行きたくない。
- 部活の大会やイベントが中止になりショックである。前に進むことができない。
- 家庭環境が複雑で家を出たいが、自粛期間中により知人を頼ることができない。
- 学校に行くとコロナに感染してしまうのではないかと家族が心配している。
- 休校が続き、先生に悩みを相談する機会がない。

- 休校期間中、学校が各家庭に電話連絡や家庭訪問し、子どもたちの状況について把握
- 学校再開後、心と体のアンケートを実施。心身の不調や不安について把握し、気になる子どもについてはSC面談につなぐ取組
- 「臨時休業中における児童生徒の非行防止・防犯対策関係者会議」開催。児童生徒の生活状況と課題等について協議し、県民へのPR作成・周知

今後の
取組の
方向性

- 新型コロナウイルス感染症に関する適切な知識の理解と偏見や差別は断じて許されるものではないという人権感覚の醸成
- 学校・家庭・地域にて児童生徒の心身の状況の変化に早期に気づくことができる取組
- 新型コロナに関する差別・偏見のみならず、平素からいじめ防止等への取組を県民総ぐるみで展開できる取組